竹取物語

かぐや姫の嘆き　―品詞分解―

八月十五日　ばかり　の　月　に　出でゐ　て、　かぐや姫、
副・程度　格助・体修　格助・方向　ワ上一・用　接助・単接

いと　いたく　泣き　給ふ　。　人目　も　今　は　つつみ
副　形ク・用　カ四・用　補動・ハ四・終（尊）語り手→かぐや姫　係助・同類　係助・区別　マ四・用

給はず　泣き　給ふ　。　これ　を　見　て、　親　ども　も、
補動・ハ四・未（尊）語り手→かぐや姫　打・用　カ四・用　補動・ハ四・終（尊）語り手→かぐや姫　代　格助・対象　マ上一・用　接助・単接　名（名＋接尾）　係助・同類

「何事　ぞ　。」　と　問ひ騒ぐ。　かぐや姫、　泣く泣く　言ふ、
係助・強意　格助・引用　ガ四・終　副　ハ四・体

「さきざき　も　申さ　む　と　思ひ　しか　ども、　必ず　心
係助・同類　サ四・未（謙）かぐや姫→翁・嫗　意・終　格助・引用　ハ四・用　過・已　接助・逆確　副　名

惑はし　給は　む　もの　ぞ　と　思ひ　つる　なり。
サ四・用　補動・ハ四・未（尊）かぐや姫→翁・嫗　推・体　係助・強意　格助・引用　ハ四・用　完・体　断・終

て、　今　まで　過ごし　て、　侍り　うち出で　侍り　ぬる
接助・理由　副助・範囲　サ四・用　補動・ラ変・用（丁）かぐや姫→翁・嫗　ダ下二・用　補動・ラ変・用（丁）かぐや姫→翁・嫗　完・体

さ　のみ　やは　とて、　は　おの　が　身　の　国　の　人
副　副助・限定　係助・反語　格助・引用　係助・提示　代　格助・体修　格助・体修　断・終

ぞ　。　おの　が　身　に　も　あら　ず。　月　の　都　の　人　なり。
係助・強意　代　格助・体修　断・用　係助・同類　補動・ラ変・未　打・終　格助・体修　格助・体修　断・終

それを、　昔　の　契り　ある　けれ　ば　こ　の　世界　に　は
接　格助・体修　ラ四・終　当・体　格助・時間　ラ四・用　完・用　過・已　接助・理由　代　格助・体修　格助・場所　係助・強意

まうで来　たり　ける　に　より　なむ　、　今　は　帰る　べき
カ変・用（謙）かぐや姫→人間界　完・用　過・体　格助・理由　係助・強意（係）　係助・区別　ラ四・終　当・体

に　こ　そ　。　おの　が　月　の　十五日　に、　か　の　もと
格助・時間　代　係助・強意　代　格助・体修　格助・体修　格助・時間　代　格助・体修

の　国　より、　迎へ　に　人々　まうで来　む　ず。　さら　ず、
格助・体修　格助・起点　格助・目的　カ変・未（謙）かぐや姫→人間界　推・終　ラ四・未　打・用

まかり　ぬ　べけれ　ば、　おぼし嘆か　む　が　悲しき　こと
ラ四・用（謙）かぐや姫→翁・嫗　強・終　当・已　接助・順理　カ四・未（尊）かぐや姫→翁・嫗　推・体　格助・主格　形シク・体

を、　こ　の　春　より、　思ひ嘆き　侍る　なり。」　と　言ひ　て、
格助・対象　代　格助・体修　格助・起点　カ四・用　補動・ラ変・体（丁）かぐや姫→翁・嫗　断・終　格助・引用　ハ四・用　接助・単接

いみじく　泣く　を、　翁、　「こ　は、　なでふ　こと
形シク・用　カ四・体　接助・順理　代　係助・区別　連　ハ四・体（尊）翁→かぐや姫

のたまふ

係助・強意
ぞ。

竹
格助・体修
の
中
格助・起点
より
見つけ
カ下二・用
聞こえ
補動・ヤ下二・用（謙）翁→かぐや姫
たり
完・用

過・已
しか
接助・逆確
ど、
菜種
格助・体修
の
大きさ
サ変・未（尊）翁→かぐや姫
おはせ
過・体
し
格助・対象
を、

代
わ
格助・体修
が
丈
バ四・体
立ち並ぶ
副助・範囲
まで
ハ四・用
養ひ
補動・ラ四・用（謙）翁→かぐや姫
奉り
完・体
たる

代
わ
格助・体修
が
子
格助・対象
を、
何人
係助・反語（係）
か
ハ下二・用
迎へ

補動・ヤ下二・未（謙）翁→かぐや姫
聞こえ
推・体（結）
む。
副
まさに
サ四・未
許さ
意・終
む
係助・反語
や。」
格助・引用
と

ハ四・用
言ひ
接助・単接
て、
代
「我
係助・強意（係）
こそ
ナ変・未
死な
意・已（結）
め。」
格助・引用
とて、

ラ四・体
泣きののしる
こと、
副
いと
形動ナリ・終
堪へがたげなり。

かぐや姫
格助・主格
の
いはく、「月
格助・体修
の
都
格助・体修
の
人
断・用
に

接助・単接
て、父母
ラ変・終
あり。
片時
格助・体修
の
間
格助・引用
とて、
代
か
格助・体修
の
国

格助・起点
より
カ変・未（謙）かぐや姫→人間界
まうで来
過・已
しか
接助・逆確
ども、
副
かく、
代
こ
格助・体修
の
国

格助・場所
に
係助・区別
は
副
あまた
格助・体修
の
年
格助・経時
を
ハ下二・用
経
完・体
ぬる
断・用
に

係助・強意（係）
なむ
補動・ラ変・用
あり
詠・体（結）
ける。
代
か
格助・体修
の
国
格助・体修
の
父母

格助・体修
の
ヤ下二・未
おぼえ
打・用
ず、
代
ここ
格助・場所
に
係助・区別
は、
副
かく

形シク・用
久しく
バ四・用
遊び
補動・ヤ下二・用（謙）かぐや姫→翁・嫗
聞こえ
接助・単接
て、
ハ四・用
慣らひ

補動・ラ四・已（謙）かぐや姫→翁・嫗
奉れ
完・終
り。
形シク・未
いみじから
ク語幹
む
婉・体
心地
係助・強意
も
サ変・未
せ

打・用
ず、
形シク・用
悲しく
副助・限定
のみ
補動・ラ変・体
ある。
接
されど、
代
おの
格助・体修
が
心

断・未
なら
打・用
ず、
ラ四・用（謙）かぐや姫→翁・嫗
まかり
強・未
な
意・終
む
格助・引用
と
サ変・体
する。」
格助・引用
と

ハ四・用
言ひ
接助・単接
て、
副
もろともに
形シク・用（ウ音）
いみじう
カ四・終
泣く。

ハ四・未
使は
受・体
るる
係助・同類
も、
年ごろ
ハ四・用
慣らひ
接助・理由
て、
ラ・下二・用
立ち別れ

完・未
な
推・体
む
格助・対象
こと
格助・対象
を、心ばへ
副助・例示
など
形動ナリ・用
あてやかに
形シク・用
うつくしかり

完・体
つる
格助・対象
こと
を
ハ四・用
見慣らひ
接助・理由
て、
形シク・未
恋しから
推・体
む
こと

格助・主格
の
形シク・用
堪へがたく、
湯水
マ四・未
飲ま
可・未
れ
打・用
ず、
形シク・終
同じ
心
格助・状態
に

ラ四・用
嘆かしがり
過・終
けり。